

第 3 回中間報告 (春学期中間報告)

1. 報告書提出日

2018 年 4 月 20 日 (金) — 春学期中間報告

報告期間：

2018 年 12 月 16 日～2018 年 3 月 31 日

(修士課程：第二学期)

2. 基本情報

氏名：河崎涼花

派遣ホストクラブ：三原ロータリークラブ

カウンセラー：橘 伸和 氏

受入ホストクラブ：Rotary Club of Norwich

カウンセラー：Janey Bevington

教育機関・専攻分野：

イーストアングリア大学 国際開発学部

教育開発修士課程

MA Education and Development

School of International Development

University of East Anglia

3. 学業面での成果

12月中旬から一か月間のクリスマス休暇を終え、1月中旬から春学期が開始しました。現在、その3分の2を終えています。あっという間に月日が経過するという日々です。春学期から新たな3科目の受講が始まりましたが、この3か月間はイギリス全土で行われているストライキや、Norwichでは珍しい大雪が重なり、授業にも影響が出ました。しかし、春学期の授業は政策・実践に関わる話題や、課題もグループワークが多く、やや理論重視で個人作業の多かった秋学期とはまた違う学びができています。

この春学期には(1)教育政策・実践(2)開発におけるジェンダーと多様性(3)識字と成人教育(教育学部の授業)、の3つを受講しています。

(1) 教育政策・実践【Education Policy and Practice for Development】

国際開発の分野における教育の政策(に関する文書)や実践活動を比較・検証する授業です。国連のSDGsや、UNESCOなどの国際機関が発行する政策文書、レポートなどの性質や情報源、提言などの作成過程やコンテキストを分析しています。包括的な教育を施すための政策・提言書として、教育を受ける対象と、その文書を受け取る対象、実際にその政策の下に主として動く団体や教育機関など、あらゆるステークホルダーを念頭に置くことが求められます。この科目では、その提言書(Policy brief)の作成を個人の最終課題として課されており、教授のアドバイスをもらいながら、その一連の作成過程を模擬体験することができています。また、途上国の問題だけではなく、受講者同士が母国の教育環境・義務教育制度に関して議論しあう中で、途上国のみならず、世界の教育状況を理解することができ、大変興味深いです。一国の中で43もの言語が混在するケニアの教育事情を話してくれたクラスメートは、「少数言語の保存も大切だが、公用語として英語を使う方が効率が良い。」という考えのもと、バイリンガル教育の功罪を捉えていました。また、あるセミナーでは120分間に、一国取り上げ、その教育事情を考慮して、どのような政策があれば問題解決されるかというタスクにグループで取り組みました。私のグループはエチオピアの少数言語と公用語(英語)のバランスに関する問題提起、政策提言をしましたが、各グループ様々で、ブラジルにおけるICT教育の充実や、インドネシアにおける試験システムなど各グループでユニークな話題が上りました。どのような教材・教師への訓練・学校内のインフラ・コミュニティの活動が必要かなど、教授と受講生皆で議論しています。政策立案というややなじみがなく、掴みにくい場面もありますが、UNESCOと関わりのある教授、Oxfamで政策提言の経験のある教授、世銀の高等教育政策を研究する教授が登壇し、体験談や実情を話してくれるため、非常に有益で興味深いです。

(2) ジェンダー・多様性と社会開発【Gender Diversity and Social Development】

ジェンダー論を軸に、途上国をはじめとする世界の複雑化・多様化した社会状況を捉える授業です。ジェンダー、言語マイノリティー、民族、児童労働、のような少数派とされる対象が直面している不条理・不平等な教育機会・権利はく奪をテーマに、毎回の授業が開講されます。「ジェンダー」という言葉の変遷をたどる回では、「ジェンダー=女性」とい

う方程式がいかにかに良い意味で崩されてきているか、その概念が実社会でどの程度理解・認識され、行動化しているのかなど、現代におけるジェンダーの意義・意味を深堀しています。授業では具体的な事例も多いのが特徴で、現時点で最も印象に残っているのは、カンボジアのスラム街での立ち退きのドキュメンタリーを視聴した授業です。“Home”や家庭状況の存続にいかにかに女性が大きな影響力を持つ一方で、立ち退きの意思決定や公的手続き、政治参加においては女性が除外されるという現実が移された壮絶ともいえるビデオに、心が痛むと同時に考えさせられました。この科目の最終課題ではこの話題についてエッセイを執筆する予定です。またこの授業ではグループプレゼンテーションが課題のひとつとして課され、半期間をかけてグループでテーマ設定から、問題提起、解決策の提案のプロセスをチームとなって考案しています。有益な情報から重要な個所を抜き出す、何が行われていて、何が行われていないのか、どのような対応が可能か、実現可能か、など洗い出し...3人で取り組むことで、彼女たちの考え方、思考のプロセス、そして一人では網羅しきれなかったであろう量の情報に出会うことができます。グループのメンバーが集まって、時に6時間図書館でディスカッションしたり、時にメンバーで思考がストップしたり、という日々です。それぞれのスケジュールや考えの相違を考慮する中で、チームとして課題をこなすことに楽しさと難しさを感じつつも、間違いなく、討論や発言のスキル向上の訓練になっています。これこそ大学院らしい学びであることを実感しています。(実際の発表は4月中旬です!)

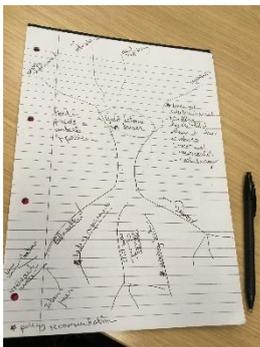
(3) 識字と成人教育【Literacy, Development and Adult Learning】

このモジュールは、留学前から受講を決めていたもので、開講を待ち望んでいました。実際、この科目は開発学部の授業ではなく、生涯教育を専攻とする教育学部の学生向けの授業として組まれているということをごらんに来て知りました。学部は違いますが、モジュール名からしても「開発学」の色が濃く、教授陣も途上国での教育経験が豊富な方々がそろっているため、開発学部とのコラボレーションとして開講されています。教育学部の修士課程の学生と授業を受ける機会としても非常に貴重で新鮮です。途上国の識字問題や成人教育、ノンフォーマル教育などの背景に流れる理論や手法を学んでいます。また、途上国における問題の他にも、私たちが実生活のどのような場面でどのような形態でリテラシーを駆使しているのか議論することもあり、身の回りの活動がほぼすべて識字と結びついていることに驚きます。そうした議論を展開したうえで、識字教育が整っていない国や識字率の低い国の事例を見ると、識字が持つあらゆる可能性を探ることになります。個々の授業の課題の一つでもある個人プレゼンテーションでは、そうした自分自身が経験した Literacy as Social Practice を取り上げ、理論や概念と結びつけながら、考察し、発表します。私は日本の就職活動時の履歴書およびエントリーシートの事例を取り上げ、「フォームを書く」という活動の裏に潜むパワー(権威による制約や限界)関係をテーマに、リテラシーがいかにかに状況によって形や意味、目的を変えるかについてまとめる予定です。入学以前より興味があった科目のため、毎回興味をそそられますが、この科目は授業以外の活

動も充実しています。大学のある Norwich の NGO 団体や刑務所とつながりを持っていることから、数々のフィールドワークが実施されています。難民として英国に移住してきた方々に対する英語教育講座、刑務所で開講されている社会復帰のための基礎教育及び職業訓練クラス、成人識字教育授業など、実際にコミュニティーや地方での活動を視察する機会が多く用意されています。自由参加ですが、毎回参加し、理論と実践の繋がりを体感しています。また、教授や外部講師によるメモリアルレクチャーや、UNESCO や世銀スタッフが集う教育フォーラム（ロンドン開催）にも、学生枠として参加させてもらっています。国や世界レベルの議論を傍聴し、分野の知見を深めています。そしてそうした会合やレクチャーでは、積極的に名刺を交換するなどして、人脈のネットワークの拡大にも励んでいます。科目の開講と貴重な機会に感謝しています。

授業以外での学び

また、授業以外にも、大学で開催された TEDx Talk（2 月下旬）や開発学部のフォーラム、上記のフィールドワークで訪れた団体でのボランティアに参加するなどして、主体的に動くことができている。なかなか課外活動に時間を割くことができないのですが、参加できるものがあれば今後も積極的に参加し、Norwich の地での経験を深めたいです。また、IDDP という英国在住の日本人学生を対象にした開発学勉強会が月に一度ロンドンで開催されています。通常はロンドンなのですが 2 月には Norwich で小規模に講演会が開催され、UNWomen の日本人スタッフの方およびジュネーブの国連組織で人事を担当されている日本人職員の方とお会する機会がありました。実際の業務内容、今後のキャリアパスなどを聞き、非常に有意義な時間となりました。また、定期的にロンドンで開催されている勉強会に関して、特に今回（4 月中旬）は、開発コンサルタントという仕事の説明会兼ワークショップが予定されているので、ロンドンまで出向き、参加する予定です。キャリア形成や人脈構築の場として、有効活用したいと考えています。さらに修士論文執筆に向けた面談や書類の手続きも進んでいます。日々時間を大切に全てに全力で取り組みます。



- (左から)・グループワークで作成した Problem Tree。問題の原因と結果を分析し、プレゼンに生かしました。
- ・教育フォーラムの様子。世銀・NGO・教授など様々な立場のパネラーが登壇。
 - ・大学で行われた TEDx。12 人の有識者による刺激的なスピーチに魅了されました。
 - ・参加したボランティアでの会場設営の様子。

4. 受け入れロータリークラブとの関わり

【これまでの関わり】

- 1月8日（月）クラブ会員 Anna さんとの面談
- 1月17日（水）地区イベントに参加@Diss
- 3月8日（木）定例会に参加、近況報告



【今後の予定】

- 5月 カウンセラーの Janey さんとの面会、定例会に参加予定
- 6月 地域のチャリティ行事への出展に同行予定

(写真) 1月17日の地区イベントで。
(左) 再会した奨学生仲間と。
(右) スピーチ中の一枚。

5. 直面した課題

ストライキと大雪による授業への影響

少し冒頭で触れましたが、2月の中旬から3月中旬にかけての4週間（のうち14日間）、イギリス全土で、学生連合と教授からなるUCUによるストライキが起きました。退職後の年金制度における学校側と教授の対立から生じたものです。授業の有無は、学部や授業を担当する教授にもよるのですが、私の場合は、この期間にレクチャー・セミナー含めて計5つの授業が休講になってしまいました。学生からは抗議や、Refundを求める声も挙がっており、大学内は混乱していました。また、同時期に大雪の被害も重なり、授業が2つ休講になりました。振替授業の予定もなく、残念な気持ちで、やや不完全燃焼ですが、英国全土・英国高等教育機関の実情を知る機会になりました。



←ここ 10年ほどで一番の積雪を記録した大雪。一面銀世界でとても綺麗なキャンパスでしたが...授業に支障を来たしたので複雑。キャンパスの丘がソリ滑りスポットになりました。

Writing

前学期の秋学期から苦戦している Writing のスキルですが、秋学期の最終課題と現在の授業の途中課題において、教授に添削してもらった機会が多数ありました。情報の主旨の理解、文章の長さ、言い回しなど、的確にフィードバックをもらい、改善すべき点が明らかになったように思います。今学期の課題では、今まで以上に余裕をもって取り組み、提出前にしっかり Proof Reading の時間を作りたいと考えています。

グループワーク

上記のグループプレゼンに向けた準備過程でメンバーの情報収集分析能力・批判的思考力に圧倒されました。しかし、彼女たちの考え方や論の導き方を聞き、共に授業の復習をして理解を深めながら、作業を進めることで、自身の文献や情報の捉え方も徐々に高度化させていくことができているように思います。学生同士で意見交換し、疑問を解消し合うことは非常に有益であることを実感する毎日です。

ロンドンでのスリル体験

先日キャリアフォーラムのため、ロンドンを訪れた際、その帰路で、財布を盗まれそうになりました。地下鉄の駅だったのですが、電車に乗り込もうとした際、おそらくその前から私を狙っていたのであろう男女 2 人組にカバンから財布を盗られました。その場ですぐに気づいたため、彼らのもとへ行き、事実を主張し、真っ向から対抗しました。不幸中の幸いで何も盗られることなく、激しい対立もなく、財布を取り返すことができましたが、思い返すと恐ろしいです…。取り返しに行くことの良し悪しも状況次第ですが、危険が潜んでいます。私の不注意もあったと反省もしています。自分の身を守ることと貴重品管理に対する緊張感を強化していかなければ、と改めて思い直しました。何事もなく本当に良かったです…。

コースワーク・修士論文・就職活動の両立

2 月頃から、コースワークに加え、修士論文の準備として教授との面談や手続き、文研調べが始まっています。そして同時に日本の就職活動も解禁になり、常に頭の中は、コースワーク・修士論文・就職活動の 3 本立てです。時間の使い方に苦労しながらも、自分と向き合い、優先順位をつけて進めています。今まで以上に効率性とスケジュール管理が必要とされる毎日です。就職活動は、キャリアフォーラムや欧州選考、Skype 面接などを利用していますが、現在学んでいる分野を活かせる業界・職種につけるよう、興味のある企業や会社へ直接問合せをするなど、自主的に行っています。学業と就職活動で相乗効果を生み、いずれも悔いなく取り組みたいと思います。

6. 今後の課題・目標

授業成績：受講中の 3 科目で 65%以上の成績をとれるよう、予習復習を徹底し、課題で成果を残したいです。

最終試験：教育開発コースの最終試験が 5 月 21 日に決まりました。過去問やコースメイトとの勉強会を利用してしっかり準備し、授業の理解度を図る指標として、完全燃焼で終わらせたいです。

修士論文：本格化する 5 月中旬に向けて、文献収集に励みたいと思います。スーパーバイザーとの面談も頻繁に行い、修士課程の集大成・研究を楽しみたいです。

就職活動：焦る必要はないと思っていますが、6 月中には内定を取ることを目標に励んでいます。

7. その他

先日、三回払いに設定していた寮費をすべて払い終わりました。(学費は一括で始業前に支払い済み) 改めて、今回の留学にあたり、金銭面そして人脈のつながりにおいて、多大なお力添えとご配慮をいただきありがとうございます。気づけばコースワーク自体は残り一か月、最終試験と修士論文執筆が控える残り約 4 ヶ月半となりました。今後も、地に足つけて、緊張感をもって前進していきます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

河崎涼花